

企画総務グループ打合せ（平成 20 年度第 5 回）議事録

- ・日 時：平成 21 年 1 月 21 日（水） 14：00～17：00
- ・場 所：JGS 会館 3 階小会議室
- ・出席者：東畑，岸田，石井，北本（記録），王，玉手，青木（事務局）
- ・欠席者：末政，喜多，大和

1．開催結果，進捗状況報告

（1）特別講演会“地盤技術者の英語”入門

通信添削サービスについて

- ・ 募集にあたっては、指導した論文が必ずしも採択されるとは保証しない旨の但し書きが必要
- ・ 50,000 円/件の料金については、支部と添削者で折半するイメージ
- ・ 料金設定には、ネイティブチェックの市中相場（20 円/word 程度）を考慮する必要あり
- ・ 添削を依頼する先生や添削期間をどうするかが課題
- ・ 本部所有の英訳ソフトがあるので、その活用も一考する価値あり

プレゼン実践講習について

- ・ プレゼン時間 10 分と講評時間 10 分（都合 20 分）で料金 10,000 円は、応募者としては高額に思われるので、他人のプレゼン，講評も聴講できるような対応が必要

英語ディスカッション

- ・ 討論テーマとしてどういう話題を選定するかが応募に及ぼす影響大
- ・ 円滑な進行にあたっては参加者の英語レベルを調整する必要あり
- ・ 英語に長けた先生（たとえば、赤木先生，日下部先生，石原先生，國生先生，谷先生，若井先生）にコーディネータ役をお願いして内容を詰めていくのが近道

（2）特別会員向け出張講座

- ・ 12/18 に、東亜建設工業(株)で足利工大・西村教授による不飽和地盤に関する技術研究を講演

（3）中国四川省地震対応

- ・ 4/14 成都着，4/18 現地解散のスケジュールで支部会員にメールを発信
- ・ 他支部幹事へも発信するが、参加者数を 10 名程度に想定しており、応募者多数の場合は関東支部を優先
- ・ 参加を広く呼びかける技術交流会は、これまでも世界中の団体と開催されて倦怠ムードもあるので、催すとしても研究所内の一部の方々を対象
- ・ チベット訪問企画は、高山病の恐れもあり、学会としては回避

（4）地盤耐震工学に関する 3 日間集中セミナー

- ・ 19 名が参加
- ・ テキストが完売しており、他支部へ展開するなど次のアクションをとるのに支障発生

（5）特別講演会“建設コンサルタント賠償責任保険の支払いからみる事故原因”

- ・ 2/12 開催の案内メールを発信済み
- ・ 現時点で 30 名程度の応募あり（定員 80 名）

(6) 講習会 “あなたの家の地盤は大丈夫？”

- ・ タイトルに “家” と “地盤” の両主役が含まれているので、地盤に注意を向けるよう “あなたの住む地盤は大丈夫？” への変更を要検討
- ・ 参加者としては学会員というよりむしろ非会員が主になる内容のため、開催場所を含め、案内先に役所、不動産業（不動産鑑定士、宅地建物取引主任者等）を含めるなどの検討が必要

(7) Newsletter

- ・ No.16 は来週を目途に発行予定
- ・ No.17 の巻頭言は石井副幹事長が執筆

2. 運営管理上の周知・報告

(1) 名誉会員候補者推薦

- ・ 野沢太三氏（S31年東大卒，JR，JGS 総務部長，参議院議員，法務大臣歴任）を推薦

(2) 第5回読者モニター推薦

- ・ 本部からの依頼は15名であるが、現時点で10名の推薦を決定
- ・ 残りは学生を対象に先生方に推薦を依頼
- ・ 女性が皆無で若手中心だが、今後は女性や60代のシルバー会員を募ることも必要

(3) 学会出版物をテキストにした講習会企画

- ・ 今後在庫を整理する予定であるが、廃刊した書籍の注文が最近増えている状況に鑑み、単に廃棄するのではなく安売りキャンペーンを行う予定
- ・ 支部が在庫減らしに協力すべく安価での利用を提案しても、本部の対応が非協力的であり、言っていることとやっていることに矛盾あり
- ・ 支部の余剰金で有用書籍を安価に購入し、会員サービスの一環として活用することも考えられるが、転売や価格破壊などの制約には要注意

(4) 地盤工学会創設60周年記念行事

- ・ 各支部に割当てられる40万円の予算の使い道を検討する必要あり
- ・ ソイルタワーコンテストの全国大会について、会員サービスG・清水リーダ幹事に検討いただいており、次週（1/26）の運営委員会で報告される予定
- ・ 小学生を対象としたソイルタワーコンテストの実施（関東学院大近隣の小学校に賞品等を含めヒアリング）や公共投資に関する論文、ポスターの募集を計画（建設弘済会に支援を申し立てる都合、1月末には岸田副支部長が概略の方針を決定）

(5) 県Gの行事収支報告

- ・ 県G活動の経理報告は現状年2回に分けて行っているが、領収書を紛失する場合も多いので、支払いや参加収入のある行事については、その都度経理報告を促す（次週の運営委員会で周知）
- ・ 現場見学会等で加入している保険については、現状500円であるが、より安い（100円）ものへ切り替える（年齢を明示する必要があるため、参加募集の際にはその旨明記）

(6) 来年度予算

- ・ 公益法人化に伴う制約として、繰越金の上限は公益事業費の1年分で、上限を超える分は明確な事業目的と予定を有する基金に充てる必要あり（今年度の繰越金は1,300万円程度であるが、

公益事業費が 700 万円程度の状態に鑑みれば、600 万円程度は基金として積立て)

- ・ 当期収支差額については、マイナス表示(資料では 186 万円の赤字)するのではなく、収入として差額分の項目(たとえば基金積立て金)を設けてプラスマイナス 0 にする
- ・ 事業実施で収入を得るように努力している G には、それに報いるべく予算を厚くする
- ・ 研究委員会の予備費的な項目「年度内新規分」を認める
- ・ 研究委員会の「杭」にも、他の研究委員会と同程度の金額(30 万円)をつける
- ・ 公益法人化に伴う繰越金対策として、地盤工学会研究発表会 60 周年記念大会における関東支部行事の予算枠を設け事業費を拡大する

(7) 評議員会

- ・ 前年度 2 月の評議員会では関東地整・北橋局長に講演をお願いしたが、今回は開催せず、基本的に今後は 4 月の支部総会、10 月の評議員会でのみ実施
- ・ ただし、懇親会(会費 1,000 円)は実施予定であり、案内葉書きにはその旨明記

(8) 来年度企画総務 G メンバー

- ・ 石井副幹事長の後任については、田矢副支部長に人選を依頼
- ・ 末政幹事の後任については、東畑幹事長から桑野先生へ打診
- ・ その他、建築分野(大林組・石井氏へ人選を依頼)や東京都からも人選を依頼(石井副幹事長が依頼書を作成し、東京都選出の評議員に見ていただいた後、太田支部長名で東京都へ発送)

(9) 支部体制

- ・ 岸田副支部長(研究委員会 G 担当)、斎藤副支部長(支部発表会 G 担当)の退任に伴い、研究委員会 G 担当には小椋副支部長、支部発表会 G 担当には新たに三田地先生に副支部長としてご就任いただくことも視野に
- ・ 岸田副支部長には支部監事への就任を予定

3. その他

- ・ 次回の企画総務 G 幹事会は、運営委員会の日程決定を受けて後日調整。

以 上